

# かえる便り 27年度7号

平成27年6月2日

初夏の候、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

先日、浜田地区で行われた総体前期には多くの皆様に応援していただきありがとうございました。また、保護者会並びに個人的な差し入れをいただき大変助かりました。

会場担当校として前日、当日に準備や片付け等をしましたが、気配りが出来ない1年生部員が多く顧問の先生や上級生から指導を受けたようです。指導を受けた事を今後に生かしてくれることを切に願っています。

試合は指導した事や試合前に指示したことの半分も出来ていない内容でした。試合で出来ていないのは私が練習で徹底させていないからですが、話を真剣に聞き内容を理解しないで試合に臨んでいると感じる面が多々見受けられます。先程の準備等と同じで、“我儘で自分勝手なプレー”と文句が多い。彼等の性根を根本から変えるよう指導をしなくてはならないと痛感しています。



目標や目的を明確にして手順を考えることは誰でも出来ます。しかし、実行に当たっては予期せぬことが多々起こるものです。特に、大きな大会の試合においては、相手も必死だから思わぬ展開になることがあります。だから、平素から苦しく疲れた状況や追い詰められた中で、自分の力を最大限に発揮できるようにすることが重要なのです。そのためには、計画段階であらゆることを想定するのです。

サッカーで大切な事は、自分が“今、何処で戦っているか”、“どのような状況なのか”など場所や状況を考え、目的を達成するために最適なプレーを選択することです。目的とは、“得点する”、“敵ボールを奪う”ことです。ドリブルは得点する一手段であり、その狙いは“突破なのか”、“パスコースをつくるためなのか”、“スペースや時間をつくるためなのか”です。宍南はドリブルの次に何をすべきかを皆が理解してプレーをしています。智翠は持つことだけしか考えていないプレーをよくします。彼らとの大きな違いは、技術体力は勿論ですが、判断と切り替えの速さです。松江工業に対して宍南は12対0（総体）、智翠は0対0（新人戦）という圧倒的な差をどのように考えているのでしょうか？ 甘い考えは捨てましょう！

憂楽の変は己に在りて、物に在らんや。（松陰） 憂えたり、楽しんだりという（心境変化）ことの原因は、すべて自分にあり物や他の人にあるのではない！